



百年の彩りを
次の100年の輝きへ

閲覧用

新郷土資料館基本構想(素案)

< 計画の構成 >

1. 八王子市郷土資料館の概要 P. 1
2. 新郷土資料館の関連計画等 P. 2
3. 新郷土資料館の基本理念 P. 3
4. 新郷土資料館の基本方針 P. 4
5. 新郷土資料館の方向性 P. 5
6. 今後の予定 P. 7

平成 28 年 12 月

八王子市

1. 八王子市郷土資料館の概要

(1) 施設概要

【開館日】昭和42(1967)年4月1日

【所在地】東京都八王子市上野町33

【開館時間】午前9時から午後5時

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日休館)
年末年始、その他

【入館料】無料

【交通】JR八王子駅南口から徒歩15分

【施設規模】・敷地面積：1,198㎡
・延床面積：1,507㎡
(常設展示室512㎡、特別展示室69㎡、
収蔵庫516㎡、集会室50㎡ほか)

【運営形態】博物館法の定義で定められた事業を行う
登録博物館で、直営で運営実施している。



施設外観



地図

(2) 現状と課題

テーマ	現状	課題
施設	<ul style="list-style-type: none"> 開館後約50年が経過し、老朽化が著しい。 各室の面積が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館運営や利用者のアメニティ向上に必要なスペースが必要。 バリアフリー対応が必要。
利用者数	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度に約3万人だった年間利用者数は、展示替えや企画展の充実など工夫をしてきたが、平成27年度には約2万人に減少。 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる利用者の増加対策が必要。
収蔵環境	<ul style="list-style-type: none"> 約10万5千点の収蔵資料数に対して収蔵庫容量が不足しており、館外に分散して保管。 	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵スペースの確保と設備の改善が必要。
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 展示や講座で公表するほか、資料シリーズ等を刊行。 成果を体験学習に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の調査研究活動への支援や、観光事業を通じた地域振興等、他分野での活用も求められている。
展示・公開	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示は通史展示とこども向け展示、体験コーナーで構成。 特別・企画展示を年数回開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 展示室の充実や設備更新が必要。 多様な利用者のニーズに応える展示や解説が求められている。
教育・普及	<ul style="list-style-type: none"> 講座・体験学習、出前講座の開催。 図書閲覧のコーナーを設置。 学校見学や総合学習の時間、職場体験などで学校教育を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> スペースや運営体制の確保が必要。 さらなる小・中学校の利用促進対策が必要。

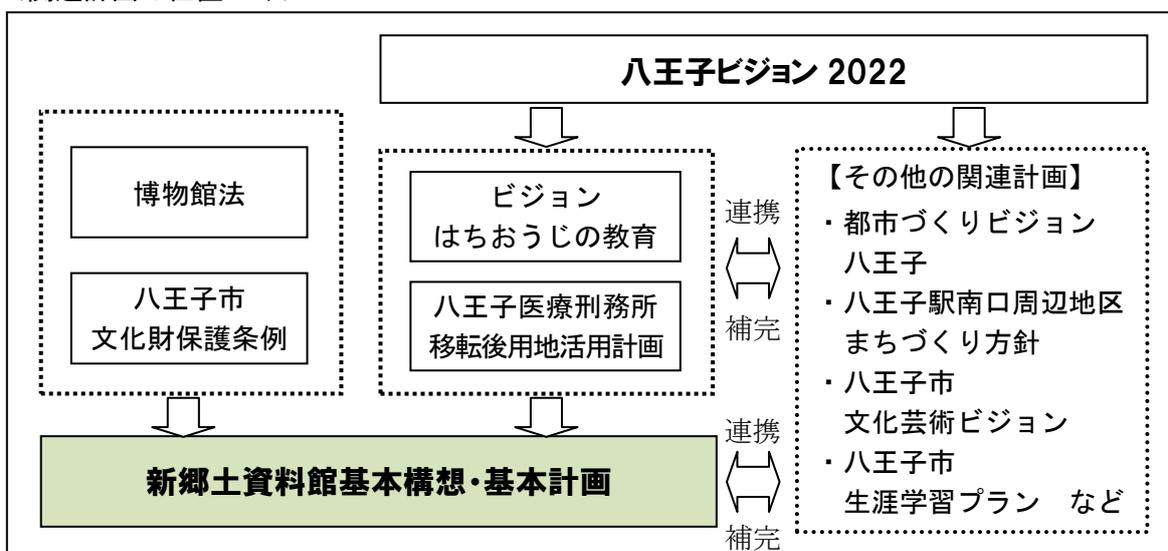
2. 新郷土資料館の関連計画等

(1) 関連計画等

新郷土資料館の整備に関連する八王子市の計画としては、「八王子ビジョン 2022」や「ビジョン はちおうじの教育」、「八王子医療刑務所移転後用地活用計画」などがあります。

これらの計画では、新郷土資料館には、八王子の歴史と文化の継承する場であることに加え、新たに次の100年をつくる「まちに開いた 新たな集いの拠点」となる役割が求められています。

<関連計画の位置づけ>



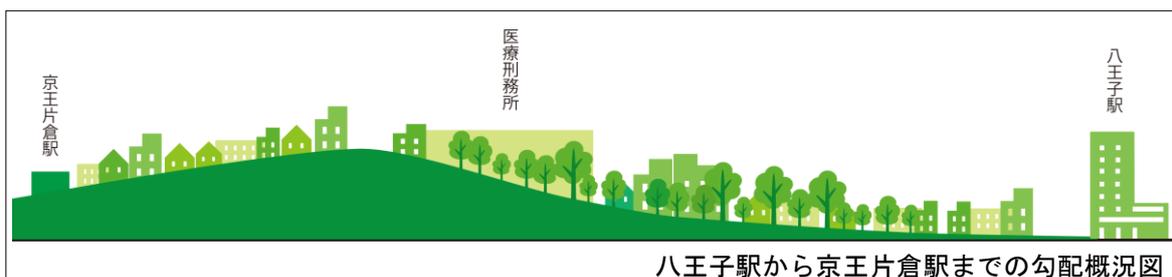
(2) 整備予定地

「八王子医療刑務所移転後用地活用計画」で新郷土資料館は、将来昭島市へ移転予定の八王子医療刑務所の移転後用地に、「みんなの公園」や「憩いライブラリ」とともに「歴史・郷土ミュージアム」として整備されることが予定されています。

当該地は八王子駅南口から南方へ約800mのなだらかな丘の上に位置します。※アクセス：JR八王子駅と京王片倉駅からそれぞれ徒歩約10分



整備予定地周辺地図



3. 新郷土資料館の基本理念

八王子の歴史・文化を探求し、 広く継承・発信するとともに、 未来へ向けて市民・地域との 協創を育む博物館

新郷土資料館は、これまでの郷土資料館の活動実績を継承しながら、八王子の歴史や文化を学び、守り、広く伝えるとともに、「協創（※）」の考えを重視し、市民や地域に広く開かれ、未来へ向けて成長し続ける博物館を目指します。

※協創とは：本基本構想では、問題を解決（目標・目的を達成）するため、市民や利用者が協力し力を出し合い、新しい取り組みを行うことと定義しました。

新郷土資料館に集まる人たちが力を合わせることによって、良い意味で当初の想定から事業範囲を超え、拡大・発展させることを協創と考え、市民や利用者とともに成長し続ける博物館を目指します。

4. 新郷土資料館の基本方針

新郷土資料館はつぎの四つの目指す博物館像を基本方針とします。

- ① 八王子の歴史・文化の特色を探求する博物館
- ② 八王子の歴史と伝統文化を広く継承し、郷土を学び愛着を育む博物館
- ③ まちに開いた新たな集い・交流・回遊の拠点となる博物館
- ④ 市民・地域とともに協創し、成長する博物館

(1) 目指す博物館像

①八王子の歴史・文化の特色を探求する博物館

これまでの郷土資料館や市史編さん事業における調査・研究の実績を受け継ぎながら地域の歩み・営み・記憶に関する資料や情報の収集・保管、調査・研究を行い、八王子の多様な特色を探求することを目指します。

- 集める 収集・保管活動の強化
- 探求する 調査・研究活動の強化

②八王子の歴史と伝統文化を広く継承し、郷土を学び愛着を育む博物館

幅広い層の人々に対し、八王子の歴史・文化が持つ多様な価値や魅力を発信・継承することで、郷土について学び理解を深め、愛着を育む博物館となることを目指します。

- 伝える 展示・公開、教育・普及の強化
- 支える 生涯学習や学校教育への支援

③まちに開いた新たな集い・交流・回遊の拠点となる博物館

八王子駅南口徒歩圏内の「八王子医療刑務所移転後用地」に、「公園」や「憩いライブラリ」とともに新たに整備される施設として、日常的に多くの人びとが集い、交流し、市内各地への回遊を促す拠点となることを目指します。

- 開く まちと人をつなぐオープンプレイス
- 憩う アメニティとユニバーサルデザインの充実

④市民・地域とともに協創し、成長する博物館

市民や地域、大学、企業等各種機関との多様な連携・活動を通じて、次の100年を共に考え、市民・地域とともに成長する博物館を目指します。

- 協創する 多様な主体との協創体制の構築
- つながる 市内外の関連機関とのネットワーク化

5. 新郷土資料館の方向性

これまでの郷土資料館の活動実績をふまえながら、新郷土資料館が八王子の歴史や文化を探求し、守り、広く伝えるために必要な機能の方向を示します。

(1) 基本的な考え方

①博物館の基本機能の充実

博物館の4大機能である「収集・保管」、「調査・研究」、「展示・公開」、「教育・普及」を基本機能と位置づけ、充実を図ります。これらについては、既存の施設の活用も図りながら実現していきます。

②新たな機能の位置付け

新郷土資料館が市民とともに学び成長するための機能として、「集い・交流」、「協創」、「レファレンス・ガイド」、「ネットワーク」を新たに取り込む機能と位置づけ、基本機能と一体的に整備します。

(2) 全体イメージ

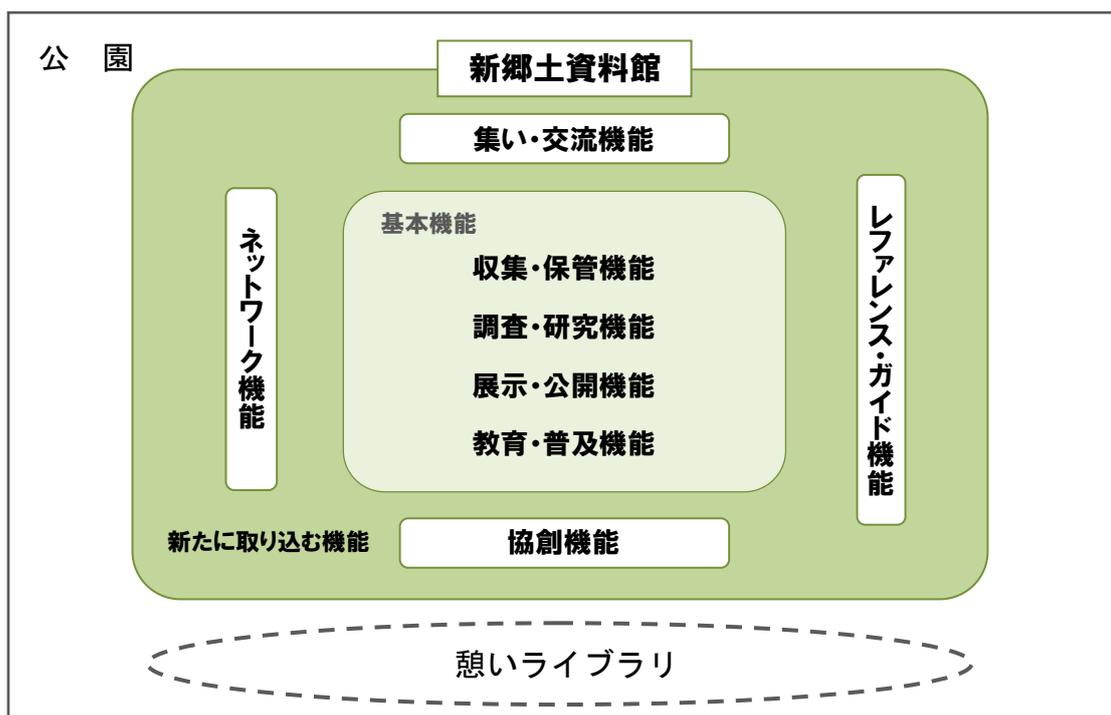
①基本機能と新たに取り込む機能の連携

新たに取り込む機能が、中核となる基本機能とのゆるやかな連携を構築することで、多様な活動の発展を促進します。

②「集い・交流機能」が空間を包括する博物館

「集い・交流機能」が空間を包括することで、公園やまちとの一体化を図り、サードプレイス型の博物館を実現します。

※サードプレイスとは：第一の居場所である「家」をファーストプレイス、第二の居場所である「職場や学校」をセカンドプレイスとし、それとは異なる居心地の良い第三の居場所と考えています。



(3) 各機能の考え方

<基本機能>

①収集・保管機能

- ・資料の収集、整理、保存・修復、管理を行う体制と施設整備を行い、資料を適切に保管し未来に継承します。

②調査・研究機能

- ・八王子の歴史や文化について、新たな価値を発見するとともに資料の充実や公開を図り、地域の魅力の発信、利用者の学習・研究活動に寄与するための調査研究体制の強化を図ります。

③展示・公開機能

- ・八王子の歴史や文化をわかりやすく紹介・解説できるように効果的な展示手法を導入し、調査・研究の成果を広く発信します。

④教育・普及機能

- ・郷土資料館が所蔵する資料や研究の成果を活用した体験的な展示の充実や講座の実施により、市民や子どもたちの学習活動を支援するとともに、出張体験事業や遠隔講座、巡回展示、教材貸出しなどの館外での活動を実施します。

<新たに取り込む機能>

①集い・交流機能

- ・サードプレイスとして、だれもが気軽に立ち寄れる学び・交流の場や機会を提供します。
- ・子育て中の親子、高齢者、障害のある方、外国人などさまざま利用者が快適に利用できるユニバーサルデザインを導入します。

②協創機能

- ・利用者やボランティア等が参加し、収集・保管や調査・研究、教育・普及、展示などを実施します。
- ・地域の歴史や文化を継承し、八王子の次の100年について市民・地域とともに考えます。
- ・市民や関連機関とともに、歴史や文化を活かした地域振興を支援します。

③レファレンス・ガイド機能

- ・利用者が必要とする情報や資料の要望に柔軟に対応できる機能を整備します。
- ・市内の文化財や観光名所などのガイダンスを行い、回遊を促進します。

④ネットワーク機能

- ・市内外の博物館や歴史的資源、大学と連携し、地域の歴史・文化の研究拠点として情報交換や研究、普及活動に取り組みます。
- ・学校と連携を強化し、郷土学習プログラムを共同開発します。

6. 今後の予定

この基本構想の方針をもとに、施設の具体的な規模や展示方法などは、今後の基本計画策定のなかで検討していきます。

基本計画では、整備事業の具体的な方法や工程を定めます。その後、基本設計・実施設計により展示などの事業計画や施設設備、管理運営計画などについて定めていきます。

(1) 計画の流れ

